

# 文化財ニュース いわき

第 64 号

平成 12 年 10 月 6 日

財団法人いわき市教育文化事業団  
福島県いわき市常磐藤原町手這50-1  
(いわき市考古資料館内)

TEL 0246 (43) 0391

## 泉第三土地区画整理事業埋蔵文化財発掘調査

— 平成11年度 神力前B遺跡・折返B遺跡の成果 —

いわき市泉町滝尻地区の土地区画整理事業による発掘調査は、平成4年度から開始され、今年度で9年目をむかえました。発掘調査は、地面の下にうまっている文化財（埋蔵文化財）の記録を残して、後世に伝えるために行われます。これまでの発掘調査によって、約4,000年前の縄文時代から近・現代にいたる滝尻地区の歴史が少しずつ解明されてきました。

土地区画整理事業の予定地内には折返A・折返B、菅俣B、神力前B、泉町A・泉町C、御前田A・御前田B遺跡の8遺跡があります。このうち折返A遺跡と菅俣B遺跡の発掘調査は終了し、折返B遺跡と神力前B遺跡の調査ももう少しで終了します。発掘調査が終わると、正式には「埋蔵文化財調査報告書」にまとめて日本全国に公表しなければなりません。報告書にまとめるには土器の接合・図化、図面のトレースなど、たくさんの作業が必要です。今回は、報告書より一足早く平成11年度の発掘調査についてお知らせします。



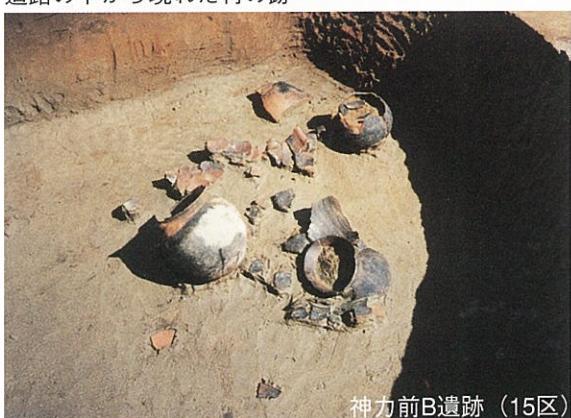
折返B遺跡（4区）発掘調査のようす



道路の下から現れた村の跡



古墳時代の家の跡



床に残された古墳時代の土器



四角く並んだたくさんの穴



平安時代の建物跡 (掘立柱建物跡)

**村があったのです**

どうろ いっしょ あらわ こふん  
道路の下から水道管と一緒に現れたのは、古墳  
じだいはじ ごろ なてあじゅうきよ あと やく  
時代初め頃の家(竪穴住居)の跡です。ここでは約  
ほど かんかく とう  
3 m程の間隔で同じ頃の家が4棟見つかっています。  
ほり にた  
家のなかを掘ってみると、煮炊きに使っていた  
どき で  
土器がたくさん出てきました。ほとんどの土器は  
ゆか ころ ひ こ  
床に転がったまま見つかりました。引っ越しの時  
す に捨てていったのでしょうか。

べつ ばしょ ちよつけいやく なら  
別の場所では、直径約0.5mの丸い穴が並んだ  
じょうたい くさ のこ  
状態で見つかりました。穴の中から腐らずに残つ  
はしら へいあんじだい  
た柱の一部が平安時代の土器と一緒に見つかり、  
ほったてはしらたてもの  
この穴は平安時代の建物(掘立柱建物)の柱を立て  
た穴だと分かりました。この建物の近くでは、同  
じ頃の家(竪穴住居)の跡も見つかっています。

ここには村があったのです。



木材が残った柱の穴の跡

とじておきましょう。



見えてきたたくさんの「穴」の跡  
あと  
なんの穴でしょうか

直径0.5～1mほどの「あな」の跡が不規則に、  
たくさん見えています。形もいろいろです。いつ、  
なんのために掘られた穴でしょうか。

掘ってみましょう。当時に使われた土器がまと  
まってでてきました。これは平安時代のゴミ穴  
(土坑)でしょうか。別の穴からはだいぶ腐って  
しまった曲物がでてきました。当時の土器がおい  
てあったので、平安時代の井戸跡と思われます。

さらに別の穴の底には素焼きの皿がありまし  
た。皿の下に江戸時代のお金(「寛永通寶」)6枚。  
この穴は江戸時代のお墓の跡だったのです。

また、杭が打たれ、木材などが多量にでてきた  
直径7mの大穴。漆器・陶磁器・砥石などがあり  
ました。杭が打たれていたので江戸時代頃の水路  
に關係する施設かもしれません。



たくさんの木材と杭があった穴(江戸時代)



神力前B遺跡(16区)  
どき  
土器がまとまってた穴(平安時代のゴミ穴)



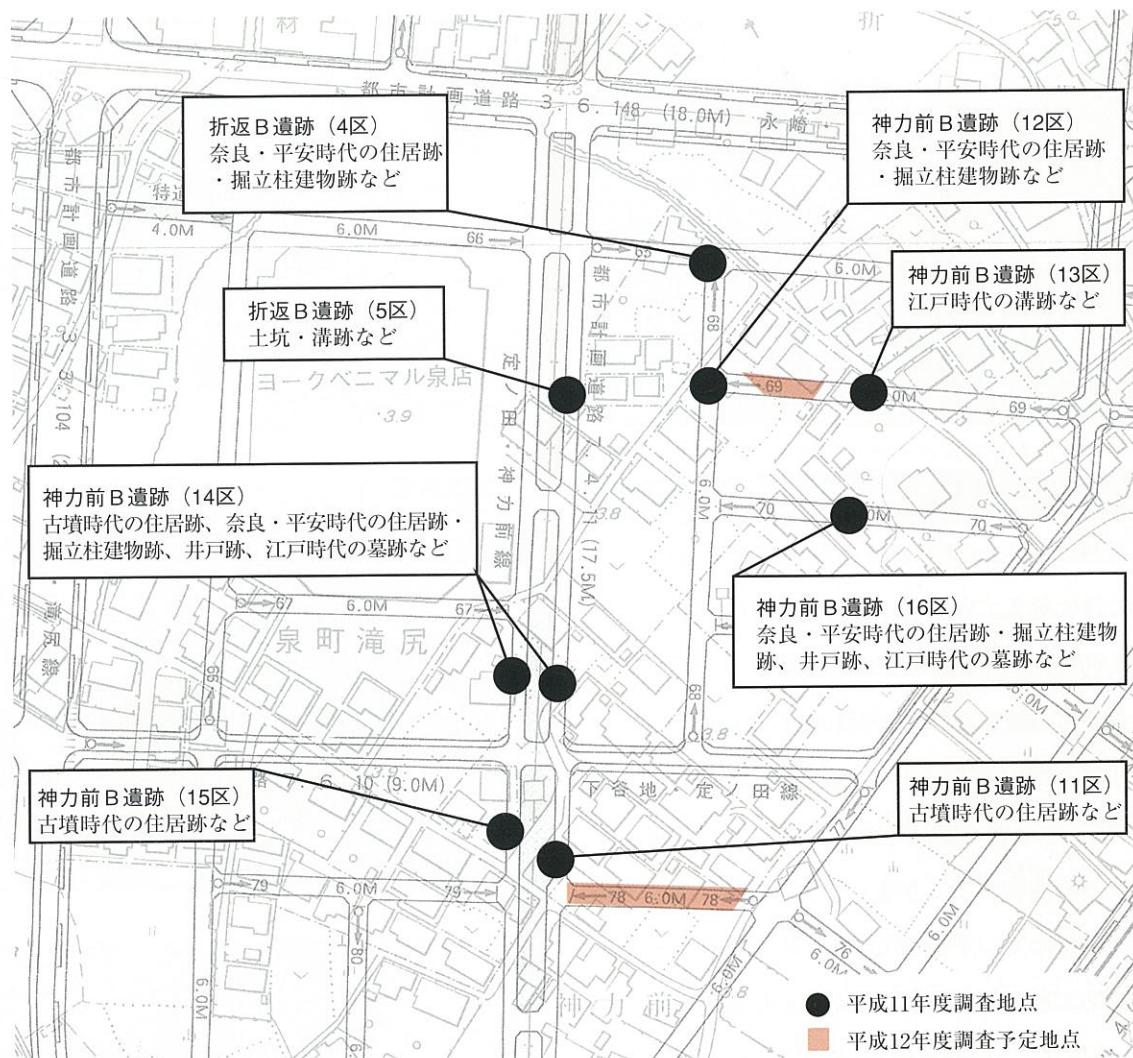
神力前B遺跡(14区)  
まげもの  
曲物があった穴(平安時代の井戸跡)



神力前B遺跡(16区)  
う  
埋められた穴の上で見つかった土器



神力前B遺跡(14区)  
すや  
底に素焼きの土器があった穴(江戸時代のお墓跡)



平成11年度調査地点と平成12年度調査予定範囲

### 今までにわかったこと

はづくつちょうさ  
平成4年度から今までの発掘調査によって、次のような滝尻地区の歴史がわかりました。

①縄文・弥生時代(約12,000～1,700年前) 約10,000年前、氷河期が終わり地球があたたかくなり、海が陸地に進入してきます。滝尻地区も大部分が海や砂浜でした。約4,000年前になると縄文人が現れます。当時の土器が見つかっています。弥生時代になると、地形はほぼ現在と同じになります。約2,000年前の土器を使ったお墓が見つかりました。しかし、これらの時代の人々が生活した場はまだ見つかっていません。

②古墳時代(約1,700～1,300年前) 古墳時代の初め頃の家(竪穴住居)の跡がたくさんみつかりました。その中には柵に囲まれた特殊な住居が見つかり、有力な豪族の存在が考えられます。

③奈良・平安時代(約1,300～800年前) 縄文時代から続く竪穴住居のほかに、地面を掘り込まない建物(掘立柱建物)の跡も見つかりました。

④鎌倉～江戸時代(約800～130年前) 鎌倉から室町・安土桃山時代の生活の跡はまだ見つかっていません。江戸時代には、泉藩の殿様のお城が築かれ、城下町もできます。また、幅2mをこえる「堀江」と呼ばれる、農業用水として利用されていた溝跡も見つかっています。

とじておきましょう。